

東北大加齢医学研究所の山家智之教授らのグループは25日、食道がんの患者向けに、食べ物をみこめるようになり、がん治療の効果も見込める「人工食道」を開発したと発表した。本物の食道と似た動きができ、内視鏡で挿入できる。

のみ込み楽な 人工食道開発

東北大教授ら

このほど特許を申請し、5年後をめどに欧米で患者に対して臨床試験を始めたいとしている。山家教授らによると、手術ができない食道がん患者の場合、これまでは狭くなった部分を風船で広げ、ステントとよばれる金網状の管を食道に入

れて食べ物が通るようになっていたが、ステント内に食べ物が詰まる場合もあった。人工食道は、ステントの内側を新たに開発した高分子素材でコーティングしたうえ、特殊な形状記憶合金をつかって食べ物

をのみに込みやすにさせた。形状記憶合金は一定の間隔になったリング状で、電磁気を使って体の外からエネルギーを送り、次々に収縮させ、食べ物を送り込む。さらに、発熱機能も併せ持つため、がんの温熱療法と同じ効果が期待できるとい

東北大学加齢医学研究所 山家智之教授